



文化協会報

“せせらぎ”

第11号

発行 平成6年12月6日
東部町文化協会
印刷 東鉄印刷(株)

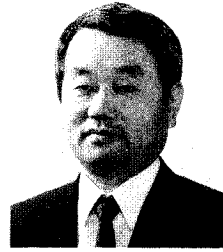


絵画部会長 山辺 甲子男氏 作品より

りが輝いて”

町の将来と私の学習

東部町長 保科 俣 教



「東部町はご発展でいいですね。」こんなおほめの言葉を時々いただきます。お世辞も入っているとは思いますが、悪い気はしないものです。事実東部町は年々人口が増加しており、公共施設も充実して、活気があり発展している町との評価が定着していると思います。加えて高速道路が開通し、サービスイリア併設のインターが設置されること、町の更なる発展を約束してくれています。

地域の発展には、産業の振興が欠かせませんが、インターチェンジから半径四km位の地域は、産業立地が非常に有利になると言われており、そんな面からも町の将来には明るさを感じられます。

町の第三次振興計画、後期五ヶ年計画は平成六年から十年までの五ヶ年間に、町がどんな事業を実施する計画であるかを示していますが、主な事業をあげてみますと、東部中央公園の整備、花と緑の町づくりの推進、世界最古の木造廻り舞台を会場とした全国地芝居サミットの開催、国際姉妹都市提携、インター流通団地、上川原工業団地の造成分譲、活性化農業構造改善事業によるアグリビレッジ湯楽里館のオープン、農産物加工販売施

設及び地ビール館の開設、田中駅前広場の再開発と温泉の活用、湯の丸高原総合利用計画による整備、マルチメディア時代に対応した企業誘致、道路網の整備、特に上小、諏訪地域を結ぶ地域高規格道路の推進、全町下水道の整備、水源の確保、高齢化社会の到来に備えた保健、福祉、医療複合施設の推進と社会福祉協議会を核としたボランティアの育成など、多くの事業が予定されています。

これ等の事業を推進するには、有利な補助事業の導入や財源の確保は勿論のこと、強力なリーダーシップと町民各位の理解と協力が不可欠であります。

自分達の町は、自分達の手によって、自分達の手で築いてゆくんだという心が、これからの町づくりには必要であります。価値観が多様化し、理想とする町の姿は人によって様々であります。しかし、町民誰もが生きることには喜びを感じ、毎日が充実していて、自分の人生を生きがいのあるものにしようと努力すると同時に、自分の住む町を大切に考え、力を合わせてより良い町にしようと考え行動する町、これが東部町の目指す「生涯学習の町づくり」であります。

広い視野に立って夢のある誤りない将来のあるべき姿を描く為に多くの人・書と接し自分を磨かなければと思う昨今です。

「よく学び、よく遊ぶ」町に

「むかしと今」

東部町公民館長 石川 好一



むかしが、すべていいわけではない。しかし、人々は知恵を働かせた。だから、いつも、自然を素直に見つめ自分を、いつも、厳しく見つめていた。今、人々は、「他」に頼っている。だから、いつも、心も顔も外を見つめて

むかしの母は、赤ん坊に自分の乳房を吸わせた。今、母は、雑誌を見ながら補乳びんを吸わせている。

むかしの母は、赤ちゃんの瞳を見つめて、語りかけていた。今、母は、T・Vを見ながら、上の空で赤ん坊のおしめを取り換えている。

むかしの母は、赤ん坊の体温を自分のおでこで確かめた。今、母は、それを電子体温計でみている。

むかしの母は、わが子のいたずらを近所に、あやまり回った。今、母は、わが子のいたずらを隣りの子のせいにしたがっている。

むかしの母は、わが子の非を、仏前に座って謝した。

今、母は、わが子の非を、社会のせいにしたがっている。

むかしが、すべていいわけではない。むかしは、いろいろなもの不足していた。『食うこと』『生きること』に精一杯だった。

しかし、そんな中にも、何かほんのりするものがあった。心のぬくもりがあった。

今は、何でもある。冷蔵庫の中で『もの』を腐らせているほどだ。しかし、そんな豊かな生活の中にある自分に、何か欠けているように思えてならない。

むかしが、すべていいわけではないが……

「お母さん——、秋の空って、筆でこすつたように、雲が広がっているネ」

「そんなこと、どうでもいいでしょう！早く、宿題をやりなさいよ！」

今は、何もかも揃ってはいるが、やっぱり、何か欠けている。

平成六年度文化協会報「せせらぎ」の瀬音が、町民のみなさんの心に、より清く、より美しく、響き広がることを祈念するとともに、ご活躍されておられる協会のみなさんに心からの敬意を表して止まない次第です。

ひとりとひと

〈学んでいます〉

我が町の図書館風景

東部町図書館長 小林 幸喜



朝十時、開館の時間だ。玄関へいくと、開館を待ちかねている方がいらっしやる。時を同じくして、電話での問い合わせも相次ぐ。あわただしい中で「さあ、やらなければ」との思いがするひとときだ。

かなり高齢の方が「こんな傾向の本を」と、希望されるので、五・六冊選んで見て頂く。こんなことを何回か繰り返すうちに、今度はこの本、今度はこの作家のをというように、読書の傾向が深まっていかけた。そうなると思議なもので、私どもの方でも「今度お見えの時は、この本を紹介してみよう」といった、一体感の様なものが生まれる。

町外の方が、美術論の本を求められた。多分ないだろうという雰囲気でも問われたが、探したらあった。喜んで頂けたが、その本が館にあったということ、私も嬉しかった。それがきっかけで、よく訪れて下さっている。

オフトーク通信で、月二回・一回四冊のペースで、新着書の内容紹介をしている。翌日には、メモを持って、その本を読みたいとのリクエストを受ける。放送している時はまるで手応えがないが、こんな方がいらっしやるのだと思うと、力

も入るし、聞いて下さる努力に敬服もする。

ご家族づれの来館者も増えてきて、休日などは大にぎわいだ。お父さんは新聞・雑誌・専門書、お母さんは調べごとや小説、子供さんは絵本や物語を、それぞれ場所で読まれ、二、三時間後に満ち足りた顔で帰られる。また、朝から夕方まで、ほとんど一日を図書館で過ごされる常連の方も増えてきた。私も職を離れたら、こんなふうな素晴らしい時を過ごしたいと思うことしきりだ。

本を読むなんて暇人だなあとか、そんな感じがなくなど口にはされる方や、図書館なんておらあたりの行く所でない、と思っいらっしやる方も多いように見受けられる。しかし、そうだろうか。来館者に接していると、暇そうでも気どつていない。むしろ、生き生きとした、張りのある生活をしていらっしやる感じだ。生活の一部に図書館を入れているという、普段着の姿だ。かつては、図書館は学生や研究者の専有物だったが、今の図書館は町民の皆さんの図書館、いや書齋だ。知る楽しみ、読書の楽しみが加わるだけでも、一日が豊かになる。そのお役に立ちたいと念じている。



楽しく、生き生きと、

生涯の「力」となるもの

文化会館運営委員長 阿部 竹彦



「私自身の生涯学習の実際と、運営委員長としての考えを内容として」と言う命題の、寄稿依頼をいただきましたが、改めて「君の生涯学習は」と問い正されても、これと言って表記する程のこともございません。

もし参考のためにと強いてあげれば、十五、六年前から、上小消防協会のラッパ吹奏大会の審査長を委嘱され、大会を含めて年に二晩か三晩づつですが、要請により管内の市町村の消防団を訪問指導することです。

吹奏技能の向上を願うことは勿論ですが、迎えてくださる姿勢の正しさ、指導を受ける若い人達の熱意が嬉しく請われのままに続けております。

この関係もあって町の消防団では、音楽隊発足時より、常任講師の位置づけをいただき幹部所属の一員として、音楽を通じた生涯学習の一面面とも言える消防団活動の楽しい部分を分かちあって十年になります。

「継続は力なり」今では音楽隊も隊長・副隊長を中心に、楽曲の練習・仕上げから、演奏出動の企画公演まで、確実に自分達の手で進められるまでになりました

し、ラッパ隊も吹奏技能の向上が進み、新曲も僅かな期間に完成できる皆さんに成長し、消防団活性化のために将来東部の伝統となる確かな「力」となる何かを掴んだようで、今、私は楽しみながら作曲・編曲を担当させてもらっています。所属団体、消防団音楽隊と言うことで、文化会館の運営委員会の一員になっています。

会館事務局からは、その時々々の催し物の評価・反省から次への要望、チケットの販売等の問題点・改善策を話題として提出され処理されますが、運営のむずかしさは、出演交渉契約は一年以上も先のことで、実際公演の芸術性までは予測できていないことです。

生涯学習の一環として、地域の文化活動の支援も重要な課題の一つと考えている公立の文化会館としては、大変な努力が必要とされるところです。

発足して五年目頃になると、会館の施設に比べ、その事業内容などソフト面の貧弱さが指摘される所も多いようですが、こちらでは自主事業公演活動の充実に併せて、文化協会事務局の移転、練習室・リハーサル室の開放、鑑賞団体の育成、創作活動の支援、地域の芸術家・芸能団体の発表の場の確保等の運営と、行政改革による「生涯学習課」の進出で、『文化・スポーツ』で生涯学習を支援する活気のある運営が期待できるものと思えます。

の 紹 介

登り窯四十四人展を終えて

陶芸部会 清水厚子

町内の陶芸クラブの有志四十三名は、陶芸家山崎良徳さんのご指導の下に、登り窯を使って焼き物を作ってみようという試みに挑戦いたしました。

火入れから三日間に亘る窯たきは初めての経験で、素人がまねごとでやるには大変難しく、途中で、挑戦したことを後悔したこともありました。しかし、薪七百七十束、長薪トラック一台分を使って、温度を千三百六十度まで上げることができ、無事焼き上げることができました。

作品を手にした時の喜びと作品と対話する楽しさが、企画から今日までの出来事と重なって、忘れられない体験となりました。



『東部ひだまりコンサート』を行って

オープンハウス 金児充

人はいつも、出逢いと別れを繰り返して乍らそれぞれのドラマを、それぞれが主人公となり演じて生きていきます。

ふと誰かの唄を聴き、「こんなにづらい思いをしているのは、自分だけじゃないんだ」と救われる瞬間があったり、人を愛することの素晴らしさに思わず感動してしまったり。

シンガーとリスナーの間に、突然生まれる不思議な連帯感。

手作りコンサートは、観客、スタッフ、出演者が、何かの弾みで一つになれるホットな時空間。一人一人の夢を持ちより、また新たな未来へ羽搏くために、ひだまりコンサートは歩き続けたい。



文化会館事業とのタイアップ

オペラ事件簿

合唱部会

山丸洋子

『さてもオペラは面白い』というサブタイトルで企画したコンサート当日、お客様の反応が心配でした。良いものと分かっていて計画するのですが、実際に幕が上がって降りるまで、チケットを買って下さった皆様がどんな表情で帰られるだろうか。そんな心配をよそにコンサートの真只中、楽しそうな笑い声が舞台裏の私たちの所まで届いてきました。

聴衆側がより良いものを求める事によって、地域の音楽文化が育っていきます。他のホールにはない個性的な良い音楽を求めて『今年は何?』と期待されるような企画を、これからもうして行きたいと思っています。

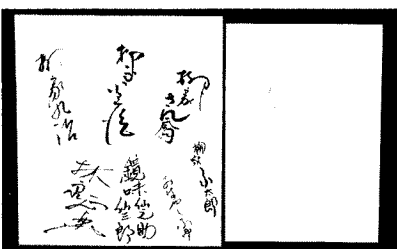


落語

東部町落語研究会

関省吾

文字通りの年度始め、四月二日に「サンテラス演芸会」を開催したところ、多くのお客様に足をお運びいただき、お礼申し上げます。イベントの立ち上げは少なくとも三ヶ月前の定石通りに、一月より取り組みました。落語は小三治、さん喬と実力派を呼び、紙切り、江戸大神楽曲芸等の色物も交えた演芸会としたところに企画面での努力がありました。高座を客席に近づける工夫もしました。ポスター等印刷関係は、サンテラスホールのスタッフの方々にお世話になりました。チケット販売には、落語研究会メンバーの努力の他に、文化協会加盟各団体の方々が一生懸命努力して下さったことが特筆されると思います。



活動

第一回ミュージックホリデイ〈音楽部会〉

夢の実現

音楽部会長
貢 甚一郎

音楽部会の長年の懸案であった、「第一回音楽部会発表会（ミュージック・ホリデイ）」を六月二十六日に無事、盛大に挙行することが出来ました。

音楽部会は①楽器演奏②ダンス③クラオケと言った多種のグループで構成されている為、部会としての発表会は夢でありましたが、この度、その夢が実現出来た訳であります。

出演グループは①TNSジャズオーケストラ②ハーモニカクラブ③こぶしスクラブ④乙女平フォークダンス愛好会⑦下曲川カラオケ⑧常田カラオケ同好会⑨上原カラオケ教室⑩カラオケアイリスの十グループが参加しました。



美しく蝶のように

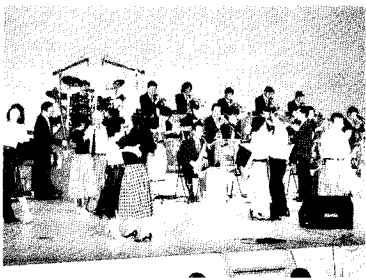
東部ソシアルダンス
小林 喜一

美しいサウンドに乗って、お花畑を軽やかに舞う蝶のように、華麗なワルツやタンゴ、情熱的なルンバやジルバを、流れるようにパートナーをリードしながら踊ってみたい。

そんな夢を見ながら練習を続けている私達の所に、「ミュージックホリデイで生バンドで踊ってみませんか」とお誘いがありました。

自信もなくどんな結果になるのかわからないが、ともかく全員で頑張ってみようと決め、先生にステップを組んでいただき、練習を重ねました。

本番では、なんとかボロを出さずに踊ることができ、ほととしました。ステージ係の方、ごくろうさまでした。



新しい発見

ハーモニカクラブ
川上 貞子

誰もが知っていて、一度は触れたことがあるあのなつかしい小さなハーモニカ。ポケットやバッグにしのばせてどこへでもお伴してくれる身軽なハーモニカ。童謡、フォーク、演歌なんでも楽譜もなしに自由にさぐり吹きで曲になってしまふハーモニカ。この楽器が好きで集まった仲間が現在二十名います。

出発は、生涯学習講座でその一期生が、ハーモニカの音色のすばらしさと手軽さを再確認し継続してクラブを作り、そこに二期生が合流して生まれたクラブです。今回のミュージックホリデイでは、他団体と合同セッションを組むことで、また新しい喜びを知りました。感謝しています。ありがとうございました。



民族衣装で踊って

乙女平フォークダンス愛好会
高藤 幸子

私達が、乙女平公民館で活動を始めてから五年が経ち、レパートリーも百曲に及びます。

フォークダンスは、「みんなが楽しく踊る」ことが目的ですから、より大勢の人が手をつなぎ、輪を大きくして踊りたいと思います。

楽しくて健康的なフォークダンスですが、一般的には「マイムマイム」ぐらいしか知られていないのは残念です。この度、ミュージックホリデイに参加して、自分達が楽しむためのダンスであったものを見ていただくために民族衣装を着けて一生懸命踊ったことは、私達の活動を知っていただく絶好の機会となりました。

これからも、生涯レクとして仲良く踊り続けたいと思います。



クルの紹介

平成6年10月15日現在の全サークルを紹介します。
興味のある方はそれぞれのグループ長までご連絡をお願いします。

部会	グループ名	内 容	代表者氏名	TEL	部会	グループ名	内 容	代表者氏名	TEL
華	遠 清 会	生 け 花	竹 内 秀 子	62-0309	陶 芸	器 楽 会	陶 芸	堀 田 雄 二	63-7923
	光 羊 会	"	松 本 房 子	62-0043		錦 窯 会	"	清 水 厚 子	62-3903
	さ く ら 会	"	山 崎 喜 美 子	62-0881		ど ろ ん こ の 会	"	嵯 峨 孝 尋	63-7184
	東 英 会	"	依 田 英 子	62-0807		田 中 盆 栽 グ ル ー プ	盆 栽	高 木 幹 男	63-5771
道	グ ル ー プ む ら さ き	"	寺 島 ま さ る	63-5430	盆 栽	和 花 木 会	"	竹 内 貞 良	62-0492
	ゆ き や な ぎ 会	"	古 田 真 由 美	64-2453		さ つ き 会	"	柳 沢 甫	62-0480
茶	正 和 会	茶 道	阿 部 ま さ 子	62-0085	音	白 鳥 台	"	橋 本 隆 徳	63-5005
	茶 香 会	"	田 丸 つ ね 江	62-1574		TNS ジャズオーケストラ	ビッグバンド	貢 甚 一 郎	62-0125
	宗 華 会	"	徳 竹 ナ ミ イ	63-5015		カ ラ オ ケ ア イ リ ス	カ ラ オ ケ	小 林 泉	62-0241
	卯 月 会	"	深 井 千 津 子	35-1335		東 部 ソ シ ア ル ダ ン ス	ダ ン ス	小 林 喜 一	62-0428
道	泉 会 第 1	"	森 泉 和 子	62-1883		歌 謡 サ ー ク ル 千 曲 川	カ ラ オ ケ	佐 藤 一 江	62-0124
	い ず み 会 第 2	"	堀 口 睦 美	63-5051		ハ ー モ ニ カ ク ラ ブ	ハ ー モ ニ カ	川 上 貞 子	62-2344
手	宗 志 会	"	寺 島 志 づ	62-2837		乙 女 平 フ ォ ー ク ダ ン ス 愛 好 会 A	ダ ン ス	高 藤 幸 子	63-6345
	レザークラフトからくさ会	手 芸	小 林 俊 子	62-1903		上 原 カ ラ オ ケ 教 室	カ ラ オ ケ	上 原 け さ え	62-0725
	ひ つ じ 会	"	矢 島 悠 紀 子	63-7000		カ ラ オ ケ ア シ ュ ラ ム	"	小 宮 山 袈 裟 幸	63-5332
	き さ ら ぎ 会	"	和 田 梅 子	62-3376		こ ぶ し ク ラ ブ	ハ ー モ ニ カ	大 井 み つ	62-1932
	も く れ ん 会	"	若 林 広 子	62-2142		プ ラ ス ハ ー モ ニ ー ・ ア ス ナ ロ	ア ン サ ン プ ル	田 中 孝 憲	35-1419
	む つ み 会	"	前 田 正 子	62-0573		OPEN HOUSE	軽 音 楽	金 児 充	64-2537
	す み れ 会	"	五 十 嵐 和 代	63-6536	HEAVEN HILL	"	山 ノ 内 智 晴	0267 25-0062	
	や よ い 会	"	竹 村 悦 子	62-1683	歩 遊 会	ダ ン ス	岩 下 正 男	64-3865	
	バン粘土わかばAグループ	バン粘土	吉 池 美 奈 子	62-2821	と な り の と こ ろ バ ン ド	フ ォ ー ク	所 雅	62-2747	
	バン粘土わかばBグループ	"	柳 沢 と も 子	62-2738	フ ル ー ト ア ン サ ン プ ル エ オ リ ア	フ ル ー ト	柳 沢 栄 子	64-2286 (自宅)	
	祢津バン粘土	"	柳 沢 と も 子	62-2738	古 文 書 研 究 会	古 文 書	宮 坂 高	62-2357	
	東 町 表 具 会	表 具	金 井 甲 子 夫	62-1801	棋 道 部	棋 道	吉 澤 亨	62-0198	
	表 装 同 志 会	"	山 崎 雄 三	0267 22-5658	柳 生 会	ち ぎ り 絵	高 橋 ツ イ	63-5037	
	一 文 字 会	"	小 林 千 昭	64-2589	ウ ォ ル ナ ッ ツ	英 会 話	新 田 敬 子	62-1825	
芸	キ ル ト の 会	パッチワーク	石 澤 頼 子	63-6929	ティンカーベル	"	赤 堀 峰 晴	64-4261	
	ハーブヘルシークラブ	ポプリ等	玉 井 晴 美	64-3969	か ぼ ち ゃ の 会	地 域 文 化	星 合 三 佐 子	63-7289	
	柳 友 会	ちぎり絵	花 岡 す み よ	62-1399	HIP ENGLISH []	英 会 話	小 林 慶 子	64-4529	
	茜 会	草 木 染	唐 沢 美 恵 子	63-6363	英 会 話 ク ラ ブ	"	峯 村 袈 裟 与	64-2251	
	白 菊 会	人 形	橋 詰 富 子	62-2915	東 部 町 落 語 研 究 会	落 語 研 究	関 省 吾	62-3102 (自宅)	
	8 6 会	"	高 木 美 枝	62-0947	よ そ お い の 会	着 物 着 付	山 崎 て る 子	62-0754	
人 形	リ ン ド ウ 会	"	藤 沢 八 重 子	62-1077	藤 春 会	藤 手 芸	宮 入 知 子	63-6334	
	さ つ き 会	"	荻 原 千 代 子	63-5722	藤 花 会	"	宮 原 弘 子	63-6125	
	御 館 会	"	三 井 慶 美	63-6656	藤 青 会	"	浅 沼 エ リ 子	64-2034	
	人 形 椿 会	"	大 日 向 礼 子	63-5890	藤 友 会	"	山 口 サ ダ	62-1764	
菊花	東 部 町 菊 花 会	菊 花	松 澤 房 視	62-2707	グ レ ー プ	大 正 琴	高 藤 福 代	63-5584	
	東 部 町 短 歌 会	短 歌	小 林 久 江	62-0871	き さ ら ぎ 会	"	桜 井 光 子	63-6306	
短 歌	かわせみ短歌会	"	清 水 さ と み	62-1063	し ゃ く な げ 会	和 琴	吉 沢 佳 子	62-2332	
	東 詠 会	"	小 林 良	62-2818	ど ん ぐ り	大 正 琴	手 塚 敏	62-0768	
	草 笛 会	"	塚 田 ケ サ 子	62-0382	す み れ 会	"	池 田 け い 子	62-3339	
	噴 畑 句 会	俳 句	北 沢 秀 夫	63-7296	千 祥 三 味 線 愛 好 会	三 味 線	山 崎 節 子	62-2230	
俳 句	石 楠 句 会	"	土 屋 忠 雄	62-0587	さ つ き 会	大 正 琴	阿 部 ま さ 子	62-0085	
	石 榴 句 会	"	小 池 栄 司	63-5182	泉 会	"	中 沢 み つ よ	63-6369	
陶 芸	る つ ば	"	深 町 て る 子	62-1892	東 部 町 五 月 会	"	内 藤 か さ み	62-0849	
	心 陶 ク ラ ブ	陶 芸	笹 沢 や い 子	63-5762	川 柳 東 部 川 柳 吟 社	川 柳	柳 沢 巽	62-0164	
	東 陶 会	"	荻 原 成 人	62-1832					
	愛 陶 会	"	原 信 子	36-2199					
	火 窯 ク ラ ブ	"	青 木 一 夫	64-3357					

文化協会

全サー

部会	グループ名	内 容	代表者氏名	TEL	部会	グループ名	内 容	代表者氏名	TEL
絵 画	東 部 町 美 術 会	絵 画	山 辺 甲子男	63-5793	舞	藤 桜 会	舞 踊	荻 原 千代子	63-5722
	く り の み 会	"	飯 島 俱 哉	62-1974		あ や め 会	"	清 水 富士子	62-1229
	青 墨 会	水 墨 画	五十嵐 忠 一	63-5660		美 蓉 会	"	佐 藤 充 子	35-2558
	六 墨 会	"	保 科 清	62-1073		新 張 舞 踊 会	"	神 津 のり子	62-2392
写 真	写 団 S F C	写 真	佐 藤 利 秋	62-0124		桜 会	"	土 屋 昭 子	62-2675
	海 野 写 真 ク ラ ブ	"	原 田 駿 輔	63-5682		柳 美 会	"	土 屋 寛 子	62-0539
書 道	桂 筆 会	書 道	矢 島 サキ子	63-6406		藤 和 会	"	堀 朝 子	36-2845
	海 善 寺 書 道 ク ラ ブ	"	福 島 友 子	62-1749		こ ぶ し の 会	"	花 岡 市 代	64-2521
	加 沢 書 道 ク ラ ブ	"	花 岡 聡	62-2580		藤 ふ み 会	"	矢 島 文 子	63-6095
	鷹 野 教 室	"	鷹 野 和 子	62-0383		ま り も 会	"	唐 沢 和 美	62-1555
	い ろ は 会	"	福 島 住 子	62-2858	常 田 駒 会	"	掛 川 うた子	62-0702	
	こ ま く さ 会	"	柳 沢 菊 子	62-2254	柳 姿 会	"	小 林 アヤ子	62-2052	
	の ぞ み 会	"	青 木 富美江	62-0832	鶯 洲 会	"	中 沢 房 子	63-5561	
	田 中 支 部	"	柳 沢 清 男	62-2738	加 ぶ じ 会	"	池 田 生 子	62-3731	
	小 林 書 道 グ ル ー プ	"	関 学	64-3029	原 口 民 踊 ク ラ ブ	"	高 藤 順 子	63-7018	
	秀 月 教 室	"	秩 父 茂 子	63-7124	若 栄 会	"	上 原 けさえ	62-0725	
曾 根 書 道 ク ラ ブ	"	竹 田 保 彦	62-1807	詩 吟	東 部 第 一 支 部	詩 吟	三 井 キチ代	62-1678	
木 友 会	彫 刻	高 藤 末 吉	63-7018		東 部 第 二 支 部	"	高 木 幹 男	63-5771	
華 洋 会	"	横 山 多香子	62-2960		曾 根 支 部	"	市 川 美津江	63-6019	
白 菊 会	"	土 屋 澄 子	62-2646		東 部 第 七 支 部	"	吉 池 弘 行	62-1058	
き つ つ き 会	"	小 平 雅 子	62-0445		東 部 第 八 支 部	"	塩 川 千恵子	64-2103	
東 部 民 謡 愛 好 会	民 謡	荒 木 正 俊	63-5151		東 部 第 九 支 部	"	宮 下 貞 子	62-2830	
五 月 会	"	檜 原 聚	63-5138		海 善 寺 支 部	"	福 島 則 夫	63-6065	
西 宮 民 謡 ク ラ ブ	"	山 越 晴 子	63-6634		中 屋 敷 支 部	"	小 野 沢 さき子	63-6372	
赤 岩 い ず み 会	"	田 口 たけよ	63-7045		長 野 明 光 会 海 野	"	原 武	36-2238	
み な つ き 会	"	山 浦 いく子	62-1952		牧 家 教 場	"	寺 島 花 子	62-0338	
民 謡	田 中 民 謡 ク ラ ブ	"	上 原 けさえ	62-0725	加 沢 教 場	"	小 林 富 子	62-3182	
	常 田 民 謡 ク ラ ブ	"	中 村 ちさみ	62-1326	別 府 教 場	"	阿 部 めぐみ	62-4516	
	大 石 民 謡 ク ラ ブ	"	柳 沢 以久枝	63-5617	中 屋 敷 教 場	"	若 林 広 子	62-2142	
	美 都 穂 会	"	平 林 けさ江	62-2797	新 張 第 一 教 場	"	小 池 利 江	63-6130	
	麦 の 会	"	檜 原 治 代	63-5138	新 張 第 二 教 場	"	土 屋 朔 身	62-2173	
	睦 会	"	吉 田 繁	63-7209	庄 謡 会	謡 曲	馬 場 庄 司	62-0035	
	片 羽 千 代 の 会	"	荻 原 信 子	62-2517	水 謡 会	"	掛 川 正 水	62-0152	
	加 沢 民 謡 ク ラ ブ	"	関 敏 男	63-6825	玉 謡 会	"	高 森 やよい	62-1392	
	小 室 節 東 部 町 支 部	"	一 之 瀬 公	62-2292	楽 謡 会	"	荻 原 加 代 子	63-5395	
	ひ ま わ り 会	"	小 林 慶 子	62-3983	東 門 会	"	関 透	62-0158	
舞	滋 野 扇 会	舞 踊	柳 沢 よし子	62-0729	合 唱	浅 間 混 声 合 唱 団	混 声	降 旗 光 利	64-2299
	柵 津 白 百 合 会	"	柳 沢 はまよ	62-2524		加 沢 母 親 コ ー ラ ス	女 声	桜 井 きよ	63-5631
	東 上 田 民 踊 ク ラ ブ	"	池 田 初 美	62-0749		和 山 び こ 合 唱 団	男 声	田 中 邦 夫	62-0222
	宗 家 西 川 流 第 二 扇 楽 会	"	天 野 芳 江	63-6182		コ ー ル エ コ ー	女 声	小 松 美 どり	63-5021
	第 一 扇 楽 会	"	荻 原 まさ子	63-5406		滋 野 小 母 親 コ ー ラ ス	"	中 村 知 津 子	62-4375
	海 善 寺 民 踊 ク ラ ブ	"	小 池 光 子	62-1926		東 部 町 混 声 合 唱 団	混 声	土 屋 征 志 郎	62-1178
	宗 家 西 川 流 柳 扇 会	"	一 之 瀬 公	62-2292		本 海 野 水 曜 会	女 声	高 木 友 子	62-2053
	金 扇 会	"	土 屋 守 代	63-6226		古 流 松 藤 会 細 山 社 中	生 け 花	細 山 城 子	63-5845
	藤 海 野 会	"	島 田 みね子	62-3095		藤 会	"	金 井 優 子	62-1801
	日 向 ケ 丘 柳 舞 会	"	武 林 ちえ子	63-5074		和 紅 会	"	金 根 道 子	64-3005
踊	田 中 民 踊 ク ラ ブ	"	小 松 久 子	62-3286	龍 生 派	"	山 崎 富 子	62-0172	
	静 若 流 若 三 会	"	吉 田 澄 子	67-3044	花 香 会	"	佐 藤 充 子	36-2558	
	ひ め ゆ り 会	"	船 田 とり子	63-5827	遠 州 流	"	小 林 清 枝	62-2579	

